

役立っています！

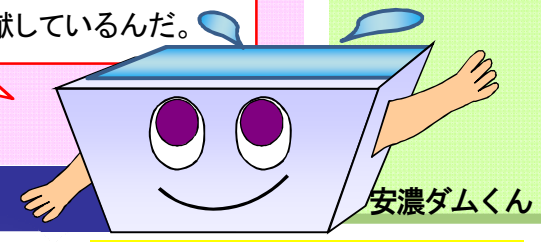
(営農の状況と施設の役割)

《地区の営農状況》

- 水稻を基幹として、小麦、大豆を組み合わせた土地利用型の水田農業が定着しています。
- キャベツ等の野菜、花木、果樹など多様な農産物の生産が行われています。



ボクたち農業水利施設は、安定した農業用水の供給に役立っているんだよ！
他にも地域に貢献しているんだ。



《農業水利施設の重要な役割》

長年、水不足に悩まされてきた中勢用水地区では、安定した用水を確保するため、昭和47年度から平成2年度にかけて国営農業水利施設が築造されました。
これらの農業水利施設は、当地区の営農と生活に大きな効果をもたらしています。

国営事業で造成された施設

安濃ダム
第三頭首工
用水路 20.2km
水管理施設

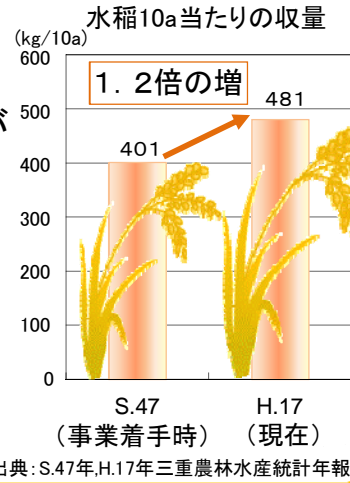
関係市 津市、亀山市
総事業費 366億円



事業の効果

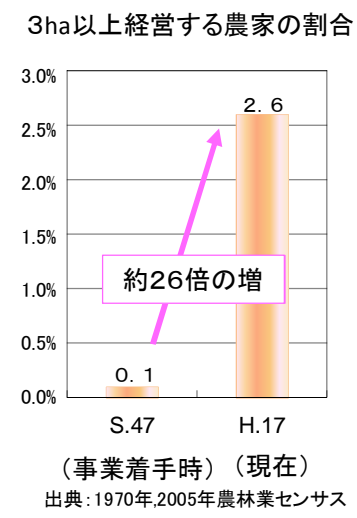
●かん水による収量の増大、品質の向上

計画的な水管理ができることで、単収の増加、品質の向上等、農産物の生産性が向上しました。



●経営規模の拡大

大規模経営農家の地域農家に占める割合が増加し、地域の重要な担い手となっています。



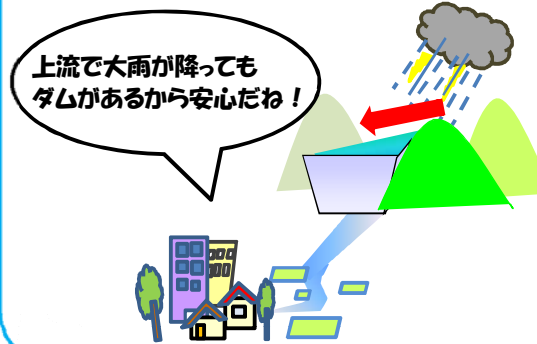
●レクリエーション拠点

安濃ダム湖畔は、湖の美しい光景など四季折々の景観が楽しめるレクリエーションの拠点として活用されています。



●洪水被害の軽減

台風などの集中豪雨時には、ダムに一時的に雨水を貯め、下流域の洪水被害の軽減に役立っています。



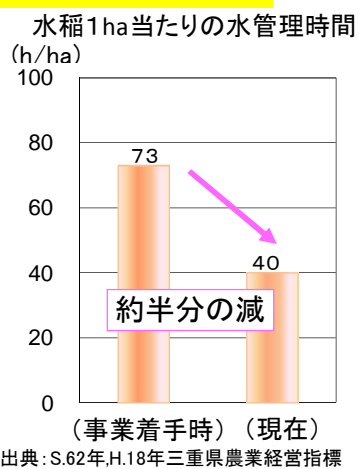
安濃川の洪水被害の回数

期間	被害回数 (回)
S.49~H.1 (ダム完成前)	2
H.2~H.20 (ダム完成後)	0

※ 破堤や溢水を原因とする被害回数
出典: 水害統計

●用水の安定供給による労働時間の軽減

農業用水が安定的に供給されるようになり、水稻の水管理に係る労働時間は半分近くに減りました。



出典: 朝日新聞(三重版) 昭和60年5月12日朝刊 17面